

温かな日差しが春の訪れを告げる頃となりました。

本日は、私たち卒業生のためにこのような式典を開催して頂きまして誠にありがとうございます。そして、ご多忙の中ご臨席賜りました安部理事長、安東学長をはじめとした諸先生方、またご臨席を予定していただいたご来賓の皆様、保護者の皆様に卒業生一同、心よりお礼申し上げます。

私は、三年次より系列校である長崎短期大学より編入学をし、在籍年数は二年間ではありませんが、大学生活は非常に印象深いものとなりました。今思い返すと、入学当初は、短大との規模の違いや学生の多さに圧倒され、慣れない環境の中でただただ必死に毎日を過ごしていた記憶があります。また、日々の授業では、栄養学の知識はもちろんのこと、管理栄養士としての在り方や対象者との向き合い方、さらには社会人として必要となる心構えまで多くのことを学びました。管理栄養士の国家試験対策では、思うように勉強が進まず苦しい時期もありましたが、仲間とともに励ましあうことで士気を高め、最後まで走りきることができました。

一方で、2020年から続くコロナの影響で学生生活・人間関係の構築の体験が十分でない私たちは、大なり小なり満たされない気持ちや喪失感を抱えるなど心の変容をもたらせられました。このような状況にある私たちを察し、他大学に先駆けWEBでの健康チェックやPCR検査所を開設し、ウイルスを持ち込まない・持ち込ませない、安全安心な体制の整備を行い、早い段階より対面授業や課外・学外活動の比率を高めて頂きました。学外での実習や卒業研究など、学びの視野を学外へ向ける機会を多く頂いたことで実践力や応用力が身に付いたと実感しています。教職員の皆様方のおかげで、大学生活を謳歌し、勉学に励むことができました。

大学生活の中では、幾度となく大きな壁に遭遇することがあり、自分一人だけがとり残され、立ち往生しているのではないかと錯覚することさえありました。それでも、自分を信じて前へ進むことができたのは、共に頑張る仲間がいたこと、小さな悩みにも真摯に向き合ってくくださった先生方がいたからです。

この四年間での皆様との出会いこそ、私にとっての人生の宝物です。

さて、私たちは今、大学生活の重みが詰まった学位記を頂きました。本日をもって長崎国際大学から自らの羽で羽ばたき、新たなステージへと飛び立ちます。在学中には、ロシアのウクライナ侵攻や新型コロナウイルスの蔓延等により世界は激動の年となりました。その他にも、地球温暖化などの環境問題や食糧問題、高齢化や生活習慣の変容に伴う疾病構造の変化などの課題が山積しています。しかし、これまで大学で培ってきた経験が、必ず私達の糧となり、目の前に立ちはだかるこれらの諸問題に対し、必ず乗り越えられると信

じています。

また、大学生活を通して学んだ知識や学問に加え「いつも人から、そして心から」のモットーを忘れず、それぞれの分野で活躍し、輝かしい未来となるよう一人一人が託された使命を精一杯果たしていきたいと思えます。

最後になりましたが、本日まで真摯にご指導、ご支援いただいた諸先生方、職員の皆様、共に支え合った仲間たち、温かく見守り続けてくれた家族をはじめ、多くの支えがあつて無事に卒業の日を迎えることが出来ました。これまで支えて頂いた全ての方々に心よりお礼申し上げます。そして、皆様のご健康と長崎国際大学の益々の発展を願い、卒業の挨拶とさせていただきます。

令和五年三月十一日

卒業生代表

健康管理学部 健康栄養学科 木村 美公